

## 議事（1）各ワーキンググループ等の検討状況等について

### I. エゾシカ・ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

#### 1 経過報告

##### （1）H29 年度エゾシカ・ヒグマ G の開催経過

###### ●第 1 回会議

平成 29 年 6 月 19 日（月） 斜里町 （ルシヤ現地検討会）

平成 29 年 6 月 20 日（火） 斜里町

###### ○主な議題

###### <エゾシカ関係>

- ・H28 シカ年度実行計画実施結果について
- ・H29 シカ年度実行計画案について
- ・植生モニタリングのデータベース化について

###### <ヒグマ関係>

- ・平成 29 年度アクションプランについて
- ・モニタリング及び調査・研究について
- ・知床半島ヒグマ管理計画の普及・啓発について

###### <共通>

- ・長期モニタリング計画の見直しについて
- ・ルシヤ地区の今後の取り扱いについて

###### ○主な内容

エゾシカについては、現在の捕獲圧を継続することについて、モニタリングを踏まえ対策を柔軟に運用すべき等の意見があり、第 3 期期間中は現状の捕獲圧を継続することとしました。またルシヤの取り扱いについては密度操作等を行わない対照区として当面維持することとしました。

ヒグマについては、早急なアクションプランの確定及び未定となっている記載部分についての充実化させるよう意見があり、ヒグマ対策連絡会議において引き続き議論することとしました。

###### ○植生指標検討部会

平成 29 年 11 月 10 日（金） 札幌市

###### ○主な議題

- ・今年度の植生調査について
- ・植生指標の設定・評価について
- ・第 2 回 WG での検討内容について
- ・その他

###### ○主な内容

今年度の植生調査結果等を基に、植生の管理目標の設定に向けた議論を行いました。指標種の設定や調査・評価手法については、現在実施している調査結果を確認しつつ検討していくこととしました。管理目標については、過去のフロラ情報の充実を図るとともに、群落の回復段階や生態系の機能に着目し、段階的・計画的に検討を進めていくこととしました。

## ●第2回会議

平成29年11月27日（月）～平成29年11月28日（火） 釧路市

### ○主な議題

#### <エゾシカ関係>

- ・H29シカ年度冬期事業案について
- ・H29シカ年度植生モニタリング事業結果について（速報）
- ・植生指標について
- ・長期モニタリング計画の見直しについて（エゾシカ関係）

#### <ヒグマ関係>

- ・平成29年度ヒグマ管理対策状況について（速報）
- ・モニタリング及び調査・研究について
- ・長期モニタリング計画の見直しについて（ヒグマ関係）
- ・平成30年度アクションプランについて

### ○主な内容

エゾシカについては、本年度事業実施予定について説明を行い、昨年度災害復旧工事実施により一部実施できない捕獲メニューがあるものの、ほぼ前年度並みの捕獲を実施することとしました。また、植生指標については、回復段階を踏まえた目標設定や評価手法等の検討について引き続き植生指標検討部会を中心に検討していくこととしました。

ヒグマについては、本年度管理概要（出没数、捕獲数）及びアクションプランの進捗状況について報告しました。調査・研究について、関係委員より広域へアトラップ調査や糞カウント調査に関する報告があり、今後の実施に向け、関係委員及びヒグマ対策連絡会議においてそれぞれ議論を進めることとしました。

長期モニタリングについては、エゾシカ・ヒグマそれぞれ中間総括評価及び今後の方針に関する議論を行い、本WGと科学委員会での分担の整理を含め、次年度引き続き見直しを進めることとしました。

## （2）H29シカ年度エゾシカ個体数調整事業計画について

### A. 遺産地区内（環境省釧路自然環境事務所）

- ・引き続き、今シカ年度においても知床岬、ルサー相泊地区、幌別一岩尾別地区で個体数調整事業を行います。
- ・知床岬では流水期（へり）、海明け後早期（船）の捕獲を実施します。
- ・ルサー相泊地区においては災害後の工事が引き続き行われる見込みであることからSSは休止し、囲いわな及びくくりわなによる冬期捕獲を実施、春期はモニタリングを実施します。
- ・幌別一岩尾別地区では、幌別囲いわな（5年目）及び小型箱わなとし、岩尾別地区仕切柵による待ち伏せ式誘引狙撃による捕獲、岩尾別河口での流し猟式SSを行います。
- ・個体数調整を実施している3地区及びルシャ地区についてエゾシカ増減傾向を把握するための航空機によるカウント調査を実施します。

### B. 遺産隣接地域（林野庁北海道森林管理局）

- ・囲いわな（ウトロ東、ウトロキャンプ場、弁財崎、オシンコシン崎、マコイ沢、春苺古丹）及び箱わな（春苺古丹、金山川）による捕獲を基本とし、シカ低密度化を図ります。
- ・可猟区内において銃猟による捕獲を検討しています。
- ・遺産隣接地域は可猟区又は可猟区に近接している地域であり警戒心の強い個体が対照となるた

め、誘引に時間をかけるとともに捕獲の効果を高めるため誘引効果が発揮される時期に設定します。

- ・なお囲いわなで誘引できない個体については箱わなを設置して捕獲効果の向上に努めます。

## 2 今後の予定

### (1) H30 年度エゾシカ・ヒグマ WG の開催予定

- ・年2回程度のWGを開催します。第1回WGにおいては、外部有識者に会議出席依頼し知床半島ヒグマ個体数推定に係る調査・研究の進め方について議論を行います。
- ・年1回程度植生指標検討部会を開催し、植生の管理目標や指標種の設定、評価手法等に関する検討を行います。

### (2) H30 年シカ年度実行計画

- ・エゾシカ・ヒグマWGにおいて科学的な評価及び助言を得ながら実行計画を策定し取り組みを進めます。

### (3) H30 年度知床ヒグマ管理計画アクションプラン

- ・3月に開催するヒグマ対策連絡会議で次年度アクションプランの議論を行い、その結果を踏まえ早期に作成します。エゾシカ・ヒグマWGにおいて科学的な評価及び助言を得ながらアクションプランに基づく取り組みを進めます。

## II. 海域ワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1 海域ワーキンググループ会合の開催状況

- 平成 29 年 8 月 3 日 第 1 回会合開催（斜里町）  
平成 30 年 2 月 15 日 第 2 回会合開催（札幌市）

#### <第 2 回会合の主な内容>

- ◇ 平成 28 年度海域管理計画のモニタリング項目の評価について  
第 2 期知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画のモニタリング項目に関する評価を実施しました。

##### 【評価を実施した第 2 期多利用型統合的・海域管理計画モニタリング項目】

海氷、水温・水質・クロロフィル a・プランクトンなど、有害物質、サケ類、スケトウダラ、トド、アザラシ類、海鳥類、海ワシ類、社会経済

- ◇ 平成 28 年度長期モニタリング計画モニタリング項目について  
海域ワーキンググループが担当する長期モニタリング項目の中間総括評価を行い、また、項目の整理の方向性について協議を行いました。

##### 【今回評価を行った長期モニタリング項目】

海洋観測ブイによる水温の定点観測、アザラシの生息状況の調査、ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査、海ワシ類の越冬個体数の調査、航空機、人工衛星等による海氷分布状況観測、「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握、スケトウダラの資源状態の把握と評価（TAC 設定に係る調査）、スケトウダラ産卵量調査、トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性、トドの被害実態調査、オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング、全道での海ワシ類の越冬個体数の調査、海水中の石油、カドミウム、水銀等などの分析

- ◇ 平成 28 年度海域管理計画定期報告書について  
知床の海洋生態系や水産資源利用の現況などを把握するため、モニタリング結果を取りまとめた「海域管理計画定期報告書」について協議を行いました。  
取りまとめ後、知床データセンターなどを通じて公開します。
- ◇ 第 3 期海域管理計画について  
パブリックコメントや地元説明会での意見を反映させた第 3 期海域管理計画案について、報告を行いました。
- ◇ 第 41 回世界遺産委員会決議に対する保全状況報告について  
世界遺産委員会への報告に向け、トドに関する保全状況報告について議論し、来年度の第 1 回海域 WG 会合で最終案を協議することとしました。

### 3 今後の予定

- 平成 30 年 8 月（予定） 平成 30 年度第 1 回会合の開催（知床）
  - ・ 第 41 回世界遺産委員会決議に対する保全状況報告書
  - ・ モニタリング項目の整理
- 平成 31 年 2 月（予定） 平成 30 年度第 2 回会合の開催（札幌市）
  - ・ 海域管理計画モニタリング項目の評価
  - ・ 長期モニタリング計画モニタリング項目の評価
  - ・ 海域管理計画定期報告書の作成

## Ⅲ. 河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

### 1 平成 29 (2017) 年度河川工作物アドバイザー会議の開催経過と予定

- (1) 第 1 回会議を平成 29 年 8 月 31 日 (木) ~ 9 月 1 日 (金) 斜里町にて開催  
ルシャ川において道庁の治山ダム改良と林野庁の河床路実証試験計画 (案) について現地検討を行いました。(斜里観光協会を通じ、観光船運営各社への事前周知などのご協力に感謝)  
翌日は、地元漁協の皆様へ傍聴していただき室内会議を実施。
- (2) 第 2 回会議を、平成 30 年 1 月 16 日 (火) 札幌会場 (TKP 札幌ビジネスセンター) にて開催。  
作成中のダム改善方針案が間に合わず、別途、臨時会議を開催することとなりました。  
河床路試験計画案は、ダム改善方針案と併せて地域の皆様に説明させていただき取扱として科学委員会への報告案を検討しました。(2 月 21 日の科学委員会で承認された)。  
オッカバケ川のダム改良工事 (切り下げ) は、重機を使用せず、手作業で複数年かけて実施中であり、平成 32 年度までの期間において上下流への影響や改良効果を確認しながら慎重に進めていきますが、モセカルベツ川のダム改良は、地元地域住民の全員の合意に至らず、工事を当面見送ることとなりました。  
長期モニタリングは、今後とも従来どおり実施していきます。

### 2 今年度の長期モニタリング取組状況について

長期モニタリング実施計画に基づき、以下の 2 項目の調査を実施し科学委員会に報告しました。

- (1) オショロコマの生息状況に関するモニタリング  
5 年間の調査結果をとりまとめて議論し、「オショロコマ生息密度は低下と解釈」とする中間とりまとめを科学委員会に報告しました。  
なお、魚類生息調査は 37 河川を 5 年で一巡するローテーションで実施しており、二巡目となる平成 30 年から外来種の侵入探知を目的として環境 DNA を用いた調査を実施します。
- (2) サケ類の遡上状況調査 (隔年実施)  
ルシャ川とテッパンベツ川 (林野庁実施) 及びルサ川 (北海道実施) についてカラフトマスの遡上数と産卵床等の調査結果についてと、中間とりまとめを科学委員会に報告しました。

### 3 第 41 回世界遺産委員会決議に係わる対応について

第 41 回世界遺産委員会決議において招聘を検討するよう 2 度目の勧告を受けている IUCN のサケ科魚類専門家グループの助言ミッションについて、日本政府と UNESCO の手続きによっては最速で平成 30 年 9 月末に現地を案内する可能性がある状況を踏まえ、「招聘して現地を案内し助言を得た方がよい」との議論結果、及び招聘に備えて河川工作物アドバイザー会議が現地案内の準備に着手すると科学委員会に報告しました。

また、ルシャ川の「ダム改良の検討」と橋を残したまま実施する「河床路の実証試験」については、提出済みの保全状況報告 (第 39 回決議) で示したロードマップに沿って進めています。

これらのルシャ川の取扱については、本年 4 月以降、地域の行政や地域の皆様に説明してご意見を伺えるよう、事務局において作業中です。

### 4 今後の予定

平成 30 年度は、臨時会議を 4 月に予定しているほか、日本政府により IUCN 助言ミッションが招聘された場合の現地案内を含め、4 回の会議開催を予定しています。

## IV. 適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 【適正利用エコツーリズム WG に関する特記事項】

本ワーキンググループは、知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略にもとづき、地域連絡会議と合同で適正利用エコツーリズム検討委員会を 2010 年から開催しています。世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能な推進を通じて、良質な自然体験と知床の価値を提供しながら保全を進めています。検討会議の重要な役割は、知床エコツーリズム戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリング、保全と利用に関する課題を、管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場の提供です。

### 1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案され取組が進められている 3 件については以下のような状況です。

#### ① 赤岩地区昆布ツアー（提案者：羅臼町観光協会）

半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーと位置づけて試行している。平成 29 年度のツアー参加者は 0 人でした。今後も、平成 33 年度までの 5 年間で当該ツアーに対する地域内の合意形成や持続的な事業形態など、当該ツアーのあり方について検討を続けます。

#### ② 外国人旅行者向け情報発信の強化（提案者：知床財団）

ルールを含めた知床の楽しみ方について、外国人に向けた情報発信の強化を目的とした各種事業を行いました。平成 29 年度は利用施設最新情報ボード（知床情報玉手箱）の情報更新継続やサイネージ用ページの作成、「日刊ヒグマ情報」及び facebook によるヒグマ情報の公式的発信、日本語＋英語表記の登山道マップ販売、しれとこ森づくりの道「開拓小屋コース」の新設などを実施しました。平成 30 年度はこれまでの事業を継続するとともに、部会関係者による共同事業の検討を行う予定です。

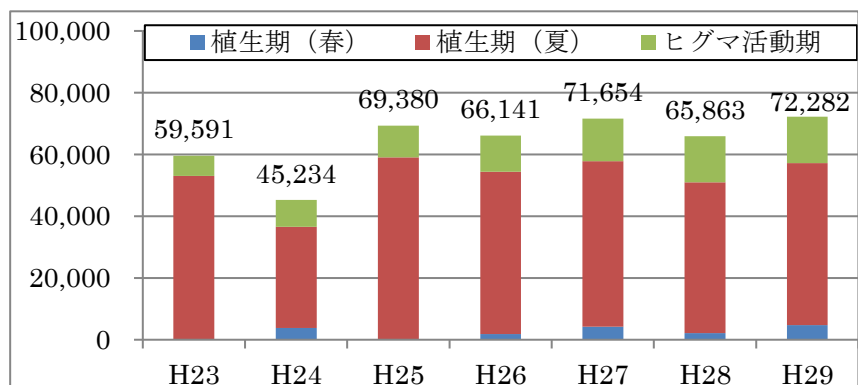
#### ③ 厳冬期の知床五湖エコツアー事業（提案者：斜里町観光協会）

冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツアーを実施しています。平成 26 年度から 28 年度までは網走建設管理部の試験除雪を行っていましたが、平成 29 年度は自主除雪にて実施しています。来年度以降については、除雪の方法や利用コントロールの体制なども含めて検討を進めます。

### 2. 個別地域における取り組み状況

#### ○知床五湖における利用調整地区制度の運用

引き続き、ヒグマ活動期及び植生保護期を適切に運用しました。平成 29 年度の立入認定者数は、前年度比約 110% の 72,282 人となり、過去最多の認定者数でした。制度導入以降は 6 万人代後半で安定的に推移しています。



### ○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

平成 29 年は 8 月 1 日～25 日の計 25 日間でマイカー規制を実施しました。今年のシルバーウィーク中はマイカー規制を実施しませんでした。数台の駐車待ちは発生したのみで、大きな混雑はありませんでした。平成 30 年も 8 月 1 日～25 日の 25 日間でマイカー規制を実施します。

### ○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会として、知床海鳥 WEEK や自然センターでの企画展等の各種イベントや海鳥のモニタリングを実施しました。海域観光の充実や収益の環境保全への還元、野生動物と人との適正な関係の周知等を目的として知床ウトロ海のハンドブックを発行し、平成 29 年度は約 3,700 冊を販売して売り上げが 111 万円となっています。

## **3. 主な検討事項等**

平成 28 年度の検討会議における議論や利用に係る状況等を踏まえ、今後以下の点について対応を実施しました。

- ① 既存ルールの見直しを含めた議論・検討を推進するため、知床国立公園利用のあり方懇談会を平成 29 年度及び平成 30 年度に実施し、知床半島の利用に関する地元意見をまとめます。平成 29 年度は全 3 回実施し、斜里町側と羅臼町側それぞれから利用のあり方を提示があり、議論を進めています。
- ② 地域外の資源利用者からも提案がなされるよう、地域外の観光専門家の参加を検討することが平成 29 年度の第 1 回の会議で合意されました。第 2 回検討会議では北見運輸支局がオブザーバーとして参加し、次回以降は関係行政機関として参加予定。今後は、運輸支局と連携し、民間関係者の検討会議参加を検討する予定です。

## **4. H30 年度適正利用・エコツーリズム検討会議の開催予定**

提案の提出状況等に応じ、適正利用・エコツーリズム検討会議を 2 回開催する予定です。